

一般研究集会（課題番号：29K-09）

集会名：災害メモリアルアクション KOBÉ2018

主催者名：人と防災未来センター，京都大学防災研究所

研究代表者：河田 恵昭

所属機関名：公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター

所内担当者名：都市防災計画分野 教授 牧 紀男

開催日：平成 30 年 1 月 6 日

開催場所：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

参加者数：150 名（所外 149 名，所内 1 名）

・大学院生の参加状況：1 名（博士 1 名）（内数）

・大学院生の参加形態 [聴講]

研究及び教育への波及効果について

本研究集会に参加した阪神・淡路大震災を経験していない学生が、震災の教訓を教え伝える立場になるような人材育成に貢献することや、地域や世代を広げた若手世代による防災活動により、震災の記憶継承と今後の防災・減災への貢献が期待できる。

研究集会報告

(1) 目的

阪神・淡路大震災を経験していない学生が、震災の追体験を行い、それを基盤とした様々な地域や世代へ広げていく防災活動に関する事例報告と意見交換を行う。単年度の取り組みではなく、この先の 10 年を見据えた活動を行うことで、震災の記憶継承と防災・減災への寄与を目的とする。また、様々な学生が集うことで、次なる防災・減災を担う若手世代のネットワークを構築することも狙いとする。

(2) 成果のまとめ

「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸（1996～2005 年実施）」、その教訓を次世代に伝える「災害メモリアル KOBÉ（2006～2015 年実施）」に続く発展的な取り組みとして位置づけられる。阪神・淡路大震災の風化が懸念される中、震災の教訓を教え伝える立場になるような人材育成に貢献することや、地域や世代を広げた若手世代による防災活動により、震災の記憶継承と今後の防災・減災への貢献が期待できる。

また、様々な学生が集うことで、次なる防災・減災を担う若手世代のネットワークを構築することができた。

(3) プログラム

10:00 開会・挨拶

災害メモリアルアクション KOBÉ 企画委員会委員長

人と防災未来センター震災資料研究主幹・京都大学防災研究所教授 牧 紀男

10:10 活動発表（各班 15 分）

兵庫県立舞子高校，国立明石工業高等専門学校（3 年生），国立明石工業高等専門学校（4 年生），

神戸学院大学，兵庫県立大学，関西大学 2 チーム

12:05 公開サロン「伝えたいことが伝わる伝え方とは？」

学生は自分たちの活動を身近に感じてもらいたいと日々その「伝え方」に試行錯誤を繰り返しています。一方で、私たちは被災体験を豊かに語る人、ふとしたときにつぶやく人、直接は語らない人など、様々な人とことばに出会い、その「受け取り方」も考え続けてきました。

今回の公開サロンでは、自分たちの活動について、いかなる方法であれば伝えたいことが伝わるのか、語りや体験学習など、具体的な方法も踏まえながら考えます。それとともに、「伝わった」と手応えが感じられるときはどんなときなのかを共有し、受け手との関係についても考えます。

ファシリテーター：高森順子（ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センター主任研究員）

グラフィックファシリテーター：鈴木さよ（TAGAYASU）

サロン参加者：参加団体の学生等（当日参加している方々全員）

12:55 閉会・挨拶（講評）

災害メモリアルアクションKOBE 企画委員会顧問・人と防災未来センター長 河田 恵昭

(4) 研究成果の公表

報告会で発表された内容等を報告書にまとめ、関係者に配付するとともに、人と防災未来センターホームページにも掲載。